

オハイオ州三六〇度夕焼けの屋上で泣くな一人で泣くな  
青木泰子

巨大な夕空。焦げるような夕焼け空に囲まれた屋上で泣く人。「一人で泣くな」が、孤独の深さを表現して見事。泣いているのは作者なのか、他の誰かなのか。作者かと思うが、分からなくてもいい。他の人の身の上には、作者自身の思いをかぶせているとも読めるからである。

階段は満ちて染まりぬ夕焼けの三段下まで夜に浸され  
羽鳥潤

夕焼けで染まっている階段の下から三段目までは、すでに影になっっている。そんな場面を、階段を主語に据えて表現したところがユニーク。

血を分けしわが子のごとき総合誌「短歌現代」の廃刊を知る  
晋樹隆彦

雑誌「短歌現代」は十二月号を最後に廃刊されるらしい。同誌は一九七七年創刊。ながらみ書房を創設する八五年まで、作者は同誌の編集長をつとめた。「血を分けしわが子のごとき」は、事情を知らない人には大げさに聞こえるかもしれないが、実感だろう。私も、むかし、編集者だったから、この気持ちがかかる。

いたましきもののごとくに夫は言へどかはゆし息子の宮崎なまり  
大口玲子

自宅をはなれての仮住まい。というのは大人の感覚

## 短歌の現在

### No.377 今月の15首を読む

#### 佐佐木幸綱

で、子供には今いるところかどこであつても本拠地である。そんな子供を、どういう角度で見るか。もちろん、どちらの見方にも理がある。下旬、いい。

歩く  
六万のわれら小刻みに繰り出され六万の一人一人が  
河野千絵

久々にデモの歌を読んだ。毎月の「心の花」に、デモの歌があふれるほどあつた時代など夢のようだ。これは反原発デモ。「小刻みに繰り出され」は、信号一回分ぐらいの時間で分断されたのだろう。下旬、この作者らしい丁寧な表現に注目。

遅しくなりたる妻を若声にきやあとと言わせるエンマ  
コオロギ  
水野利顕

ユーマアの歌だが、ユーマアを成功させているのは、「若声」という語の選び方。

推敲の苦しさ残る稿本の捨てられし歌三千余首よ  
藤島秀憲

一連冒頭に「思草稿本甲乙丙丁戌……」とあるから、近代文学館にある佐佐木信綱の第一歌集『思草』の稿本だと分かる。『思草』は刊行に踏み切る決断がなかなかつかず、長い間、推敲を重ねた。その痕跡が残っているのが五冊の稿本。「捨てられし歌三千余首よ」に、同じく作歌をこころざす者ならではの共感が読める。

リ・ウーファン美術館にて贅沢な余白と濃淡のまん